【テーマ4：大学と教育委員会とが協働して山間地域の小規模校等における校内研修の取り組みをデジタル技術によって支援する校内研修サポートシステムの開発】

【団体名】国立大学法人群馬大学

〈協力委員会〉
群馬県教育委員会事務局義務教育課
〈研究協力校〉
群馬県内の3教育事務所（西部、吾妻、利根）管内のへき地校・小規模校36　校（小学校22校、中学校14校）
群馬大学共同教育学部附属小学校・附属中学校　※拠点校として

モデル開発概要

現場における課題

- へき地校・小規模校は教員数が少なく同僚との学び合いが難しい
- へき地校等から校外の研修に参加するコストが大きい
- 校外の研修への個別参加が校内の同僚との対話や振り返りなどにつながりにくい

モデルの概要

- デジタル技術によってへき地校等を外部リソースに接続し地域に校内研修ネットワークを構築

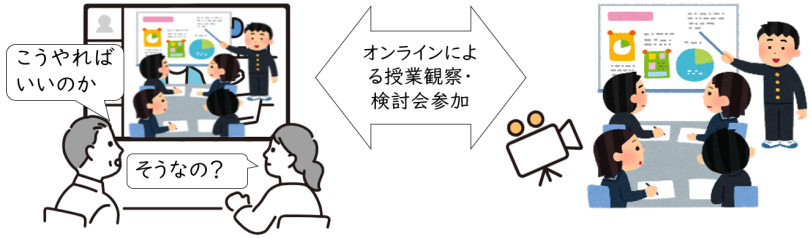
活用する技術・ツール等

- ビデオサウンドバーによる学校単位でのオンライン接続
- オンラインフォームによる相談窓口
- ミーティングアプリによるオンライン相談、訪問の事前打ち合わせ、講演会、質疑応答
- 授業実践・検討会オンライン配信システム（AIカメラ等）

高度化に資する取組

○へき地校・小規模校の研修主任の課題意識に応じて大学・教育委員会がオンラインで双方向型サポートを提供

○拠点校の授業・検討会をオンラインで配信し，へき地校・小規模校の教員が同僚や他校の教員と対話する機会を提供



モデルを活用する上でのポイントや期待される効果

- 「困り感」を報告した学校に対して誰がどのようなサポートを行うのかをコーディネートするスタッフが必要
- 学校の実態に応じたサポートを提供するためにへき地校等の研修主任の「困り感」を丁寧に聞き取ることが必要
- 複数の機器で撮影・録音した授業をオンラインで配信する場合、配信プラットフォームの仕様に合わせ映像の切り替えや音声のミキシングが必要
- デジタル技術を活用することで校外の研修に参加する際の時間的・心理的なハードルが下がり、研修活動が学校の教育実践においてより日常的に
- 学校の「困り感」に関連する理論・事例について同僚と対話することで研修へ向かう教員の姿勢が主体的、かつ未来志向に
- オンラインでのコンサルテーションや講演会等の機会にへき地校等の研修主任が互いの思いや考えを聴き合う場を設定することで学校間のネットワークの構築につなげられる
- ビデオサウンドバー（カメラ、マイク、スピーカーが一体となった機器）を導入すると、学校の同僚と同じ事例を見ながら対話をしたり、同じ話を聞いて感想を交流したりすることが可能に
- ビデオサウンドバー＆大型モニターは異なる学校の教室をつないで行われる遠隔教育にも活用可能